

三重労働局第14次労働災害防止計画に基づく
「機械災害防止対策」に係る災害分析結果

三重労働局

出資：令和7年度
機械災害調査付表
対象：82件

1 機械災害発生状況

令和7年に発生した三重県内の製造業における休業4日以上之死傷者数は、601人であり、その内、機械災害による死傷者数は、97人で、16%を占めており、三重労働局第14次労働災害防止計画に基づく機械災害防止対策における令和7年の目標値(指数)112人を下回り、目標値と比較して15人(13%)減少した。

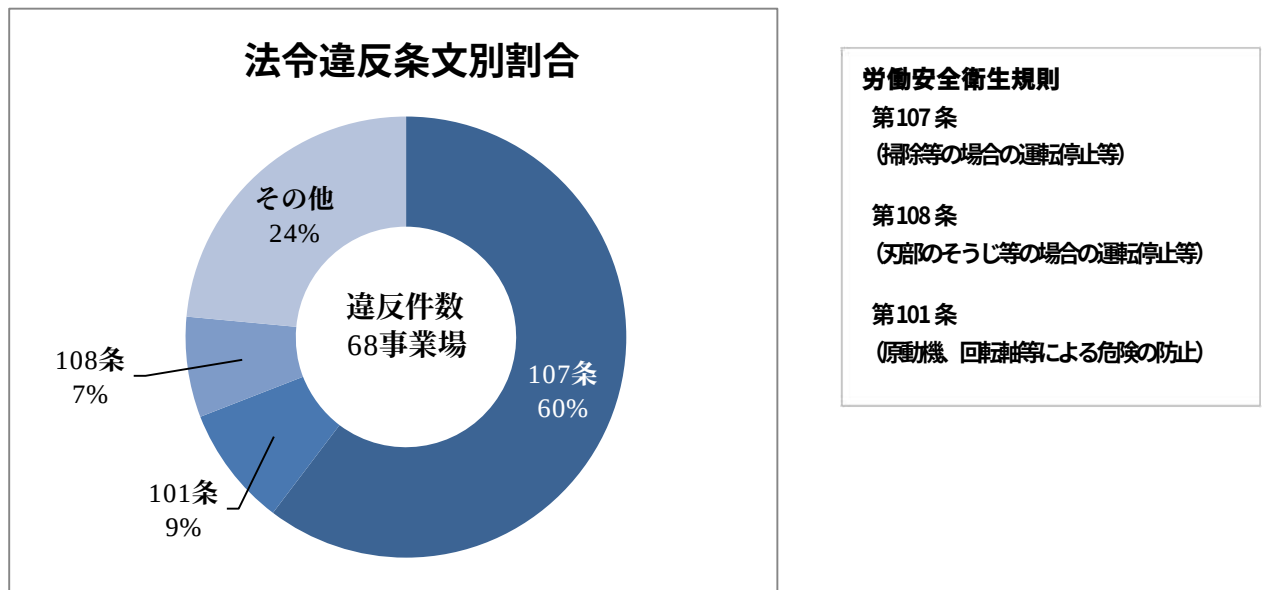
2 機械災害調査付表(機械様式第2号)の分析

機械災害発生事業場の内、令和7年度における個別指導、災害時監督等を実施し作成された機械災害調査付表82件に対し分析を行った。

分析結果は、以下のとおりである。

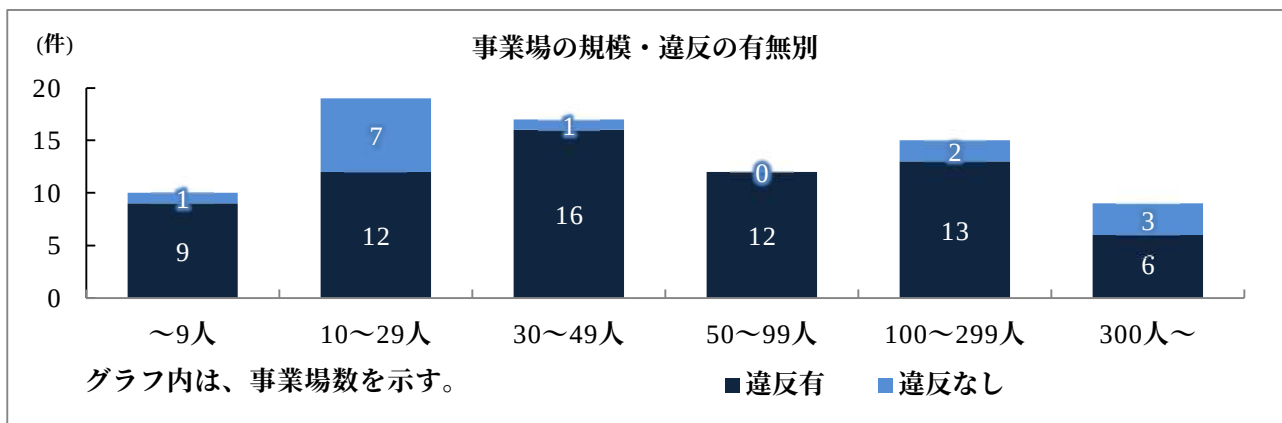
(1) 法令違反条文別

対象82件のうち、68件(83%)において法令違反が認められた。68件のうち、60%が労働安全衛生規則第107条(掃除等の場合の運転停止等)違反であった。



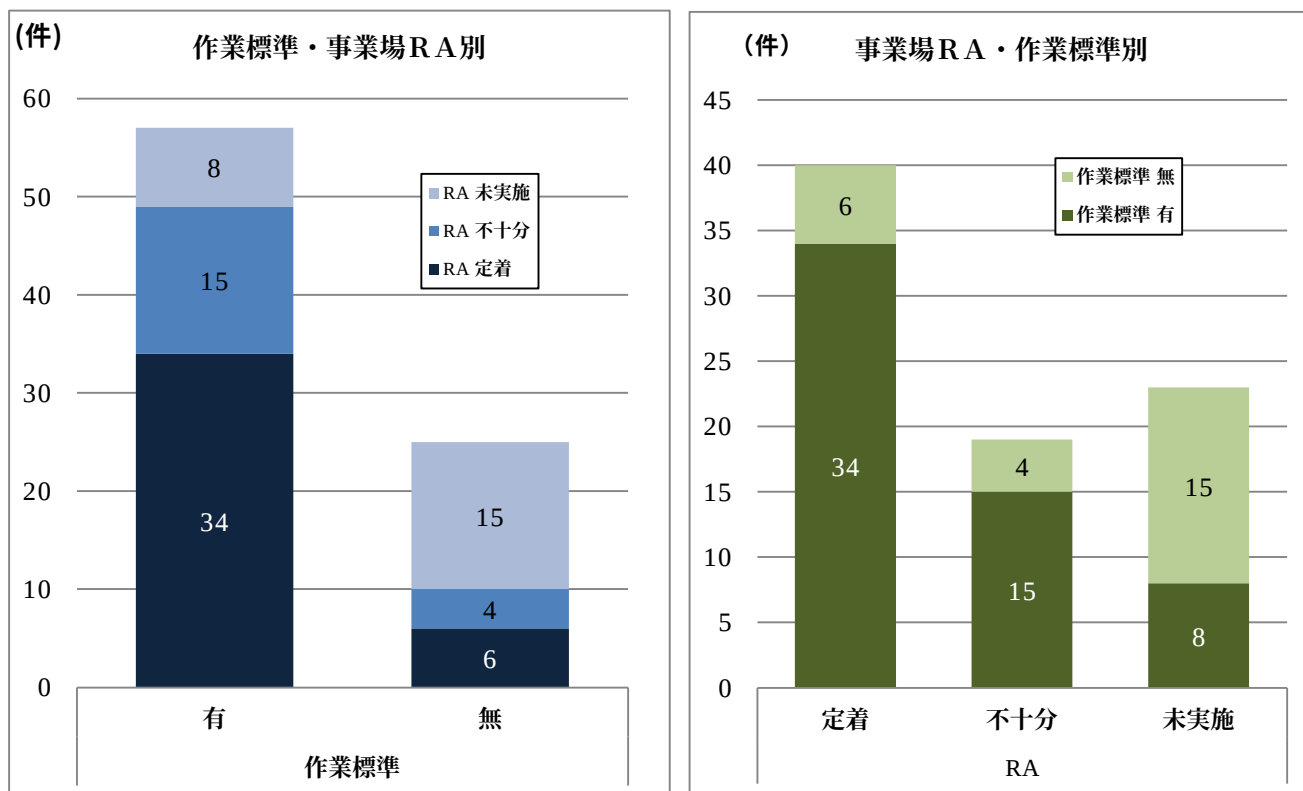
(2) 事業場規模・法令違反の有無別

規模別では10～29人の事業場が最も多く19事業場、23%を占め、次いで、30～49人の事業場が17事業場、21%を占める状況で、全ての事業場規模において法令違反が認められた。

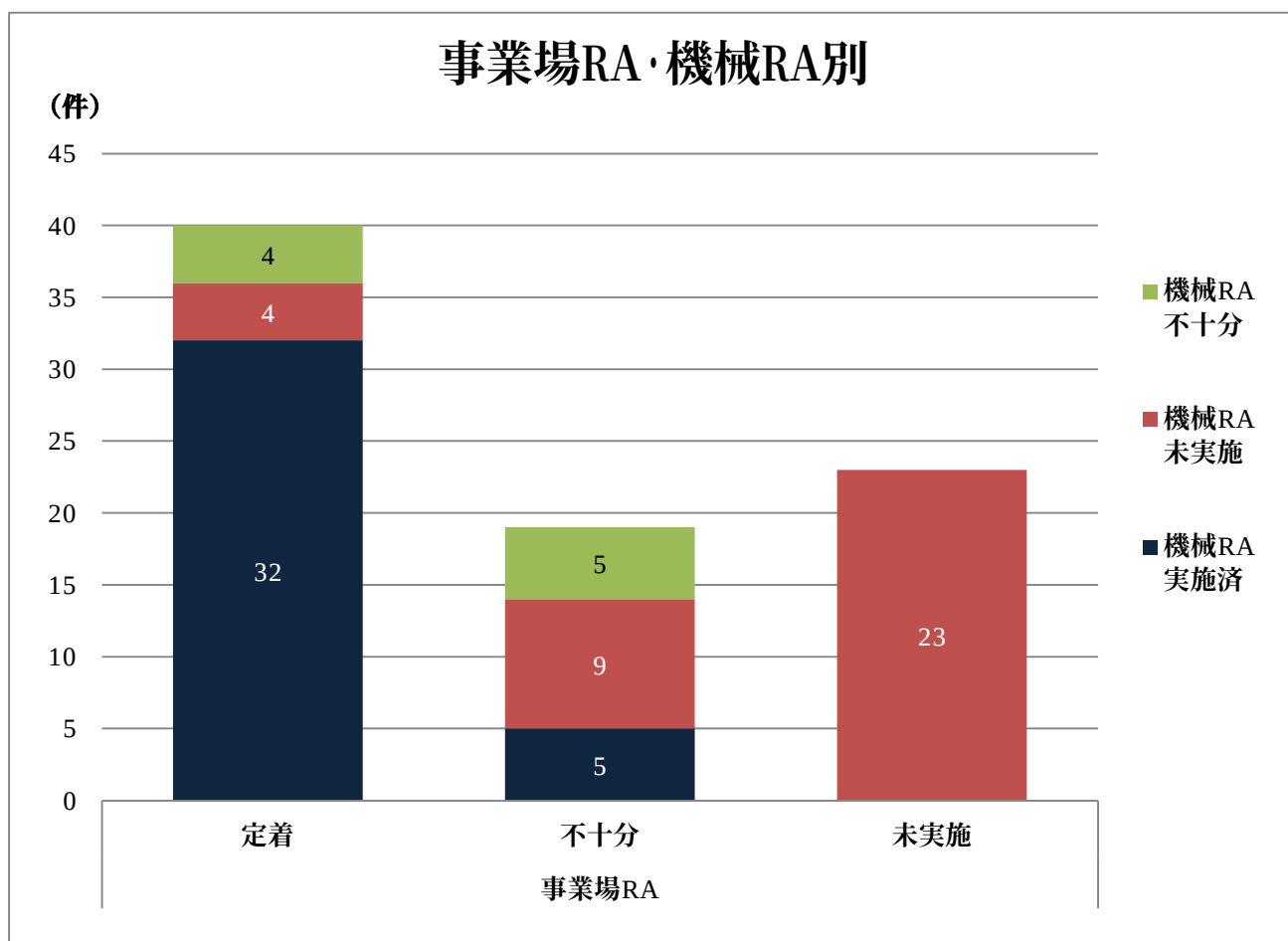


(3) 作業標準の有無、リスクアセスメント（以下、「RA」という。）の実施状況等別

① 作業標準の未作成(無)が 25 件、30%、RA の未実施及び不十分が 42 件、51%であった。

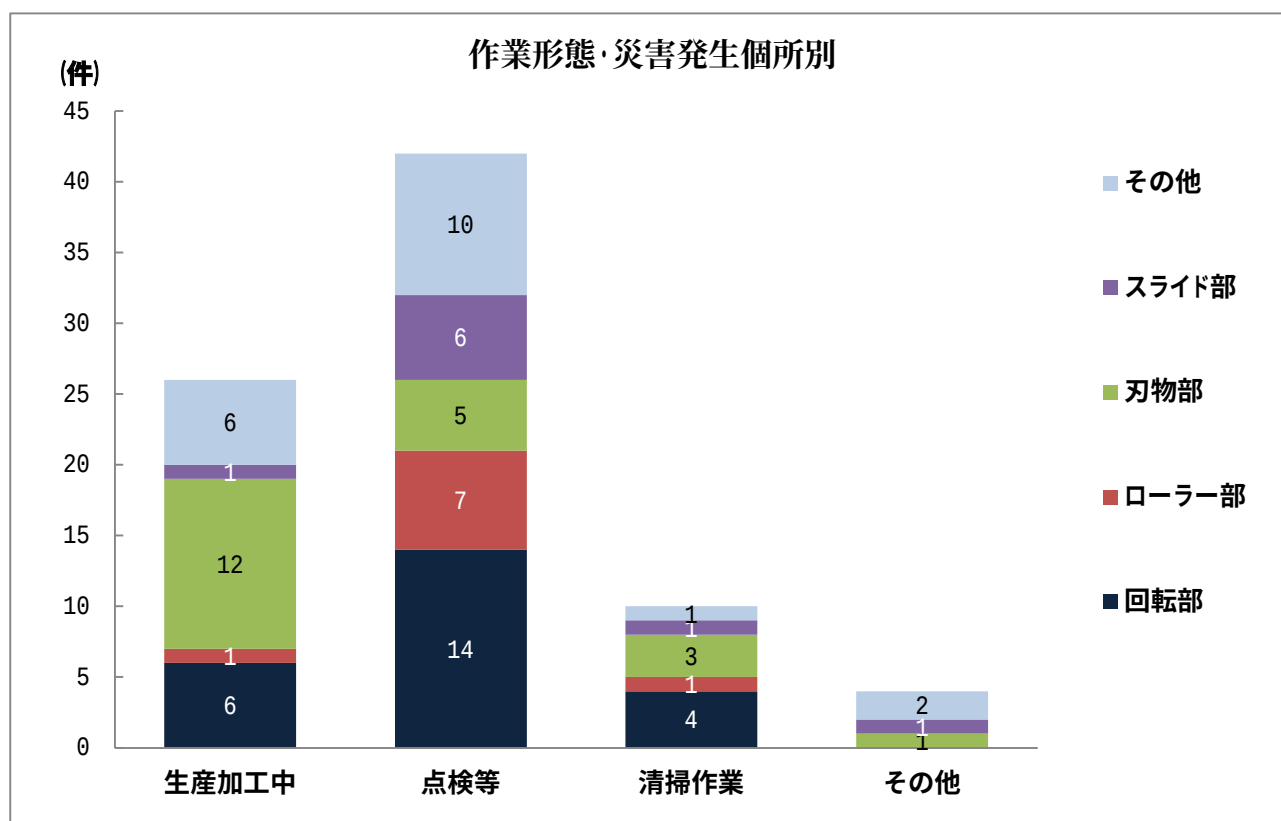


② RA が不十分であった事業場 (19 事業場) の内、74%が災害の発生した機械に係る RA が不十分または未実施であった。



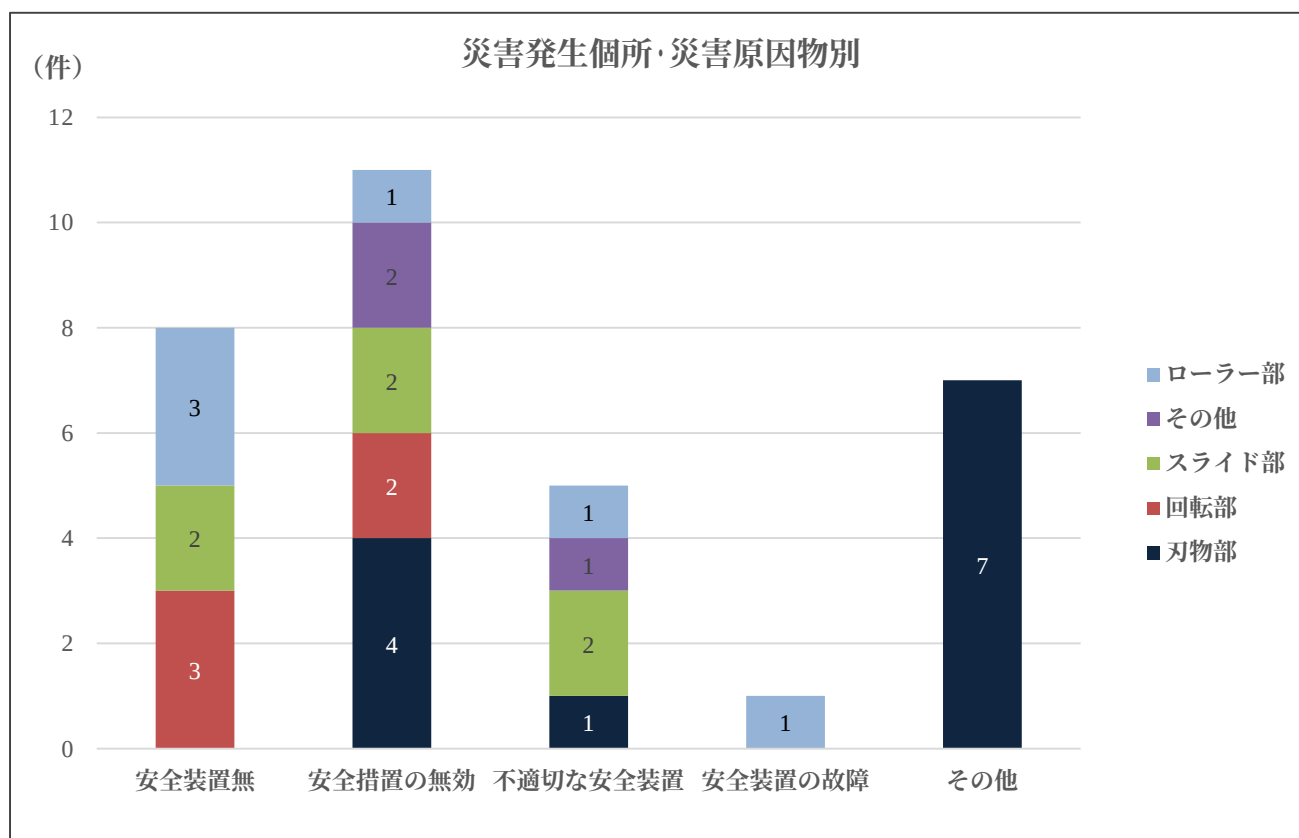
(4) 作業形態、災害発生箇所別

作業形態別では、点検等における災害が42件、51%と最も多く発生した。
災害発生箇所別では、回転部やローラー部において多く発生した。



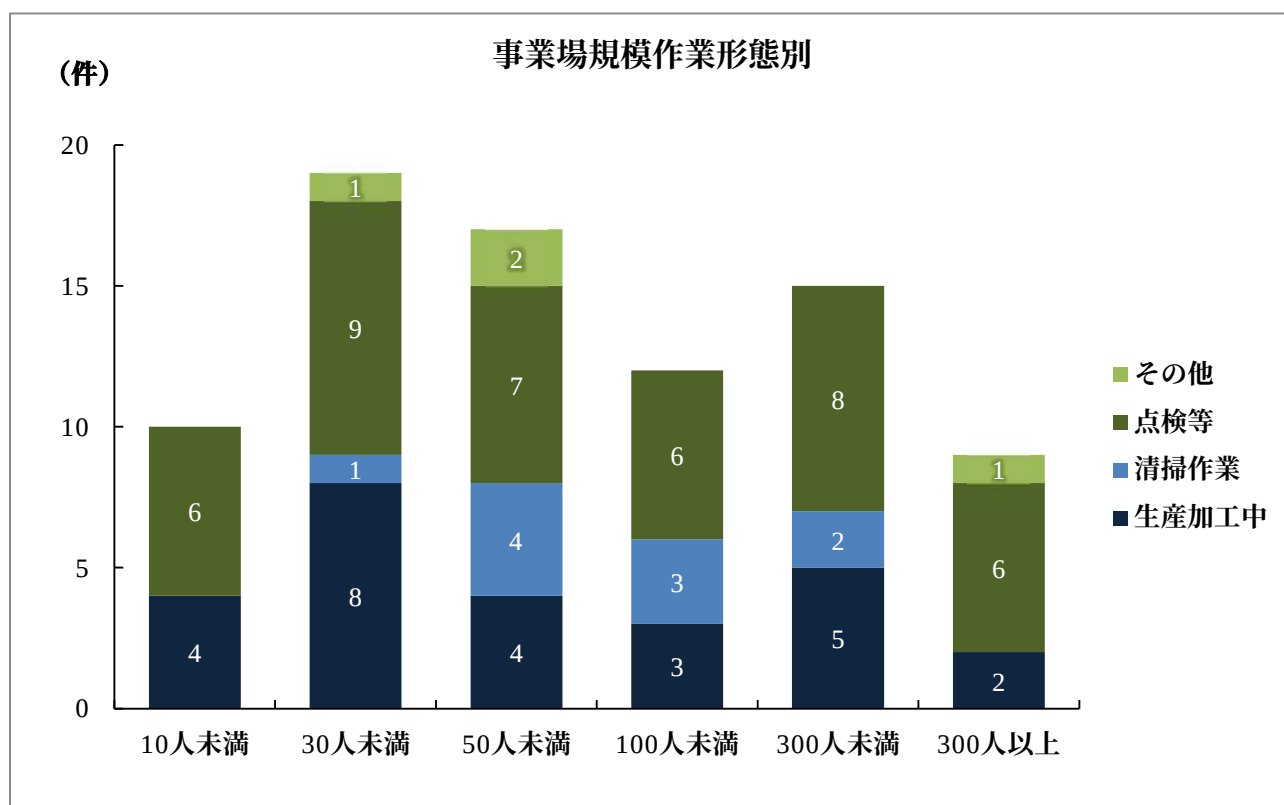
(5) 災害発生箇所、災害原因別

災害原因別 (不安全状態) では、該当なしとしたものを除くと安全装置の無効化が行われていた場合が34%を占め最も多く、安全装置の設置無と不適切な安全装置を含めると全体の75%を占めている。一方、安全装置を有していても、刃物部では災害が発生した。



(6) 事業場規模、作業形態別

30人未満の事業場において災害が多く発生しており、全ての規模区分で点検等の作業で発生が多かった。



(7) 年齢、経験年数別

年齢別では50代が22件と最も多く、経験年数別では1～5年が28件(34%)と最も多かった。機械災害は経験年数にかかわらず発生しているが、10代・20代では1～5年の労働者による災害が多くみられた。50代以上が最も多く、経験期間に関係なく発生している。10代・20代では、経験年数1～5年が多く発生している。

経験年数1～5年が最も多く28件、34%を占め、次いで1年未満が18件、21%を占めている。

